

データ経営を効率的に実現する データセントリックソリューション

石川雅朗*
山永康昌*

Data-centric Solution for Management Support through Effective Data Use

Masaaki Ishikawa, Yasumasa Yamanaga

要旨

企業のIT投資は、個々の情報システムの部分最適化から情報システム全体の最適化を目指すEA(Enterprise Architecture)に向かいつつある。その際、“いかにデータを経営に活用していくか”が企業の情報システムの価値を高めるために重要であるとの認識が深まり、データ活用を中心に据えて情報システム全体の最適化を図りたいとの要求が強くなっている。

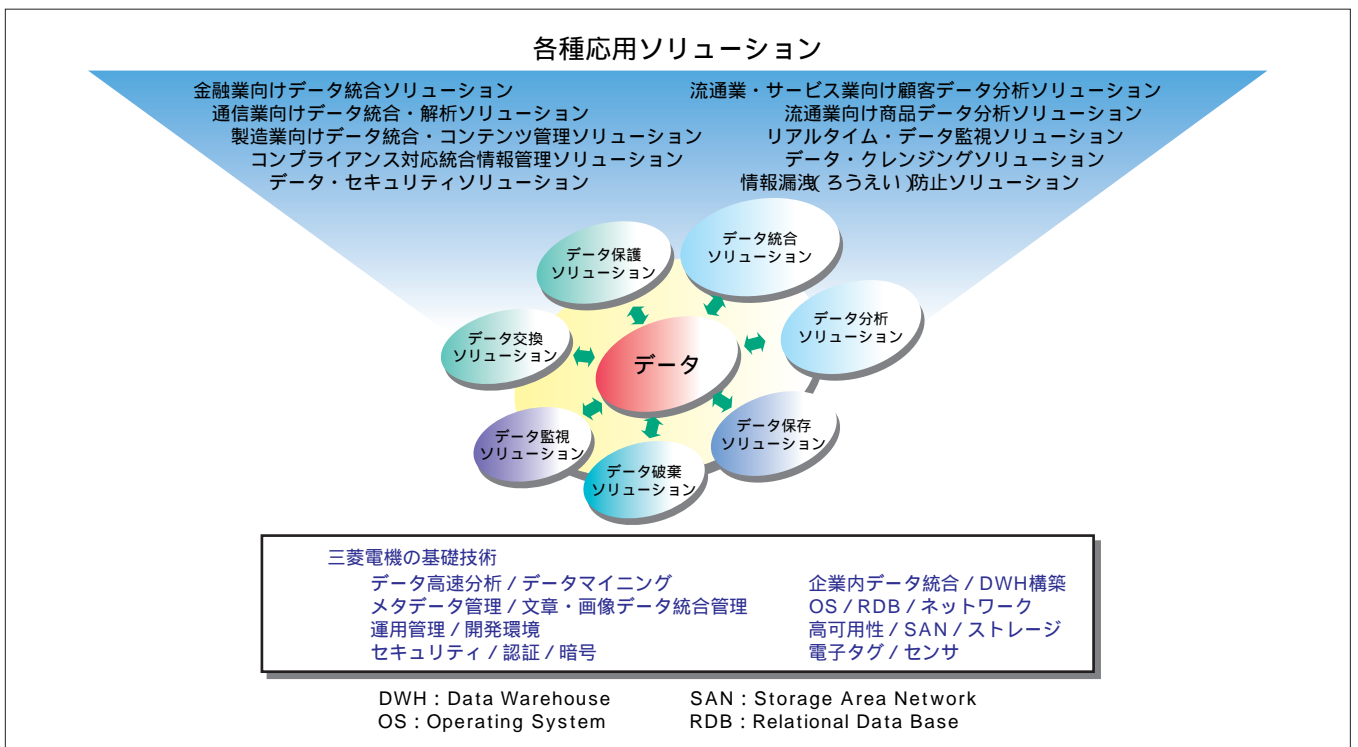
ところが、販売・経理・生産管理などの各システムを連動させるには多種多様なデータベース(DB)や業務ソフトウェア間の連携を図る必要があり、さらに、商品の在庫、納期の確認や顧客情報の取り出しなど生産や営業の現場の要求に対応するシステムを開発するためには、膨大な時間とコストがかかっている。また、今後のITシステムは、自己資産のハードウェアや業務システムが減って、データセンター上で共用動作するホスティングやASP(Applica-

tion Service Provider)を利用する方向にあり、企業が保持する資産としてデータ(情報資産)が更に重要になってくる。このように、データを中心にして、ビジネスの変化に対応し、柔軟に企業内データの利活用と適切な管理ができるソリューションが求められている。

三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)(MDIT)が提供する“データセントリックソリューションDS^(注1)”は、これらの諸課題を解決し、企業に蓄積されたデータの連携・統合・活用を効果的に実現することを目指したソリューションである。

本稿では、適用事例を交えてデータセントリックソリューションを紹介するとともに、今後のソリューション拡大の取り組みについて述べる。

(注1) データセントリックソリューションは、三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)が商標出願中である。



データセントリックソリューションDSの全体図

データセントリックソリューションDSは、EAにおけるデータアーキテクチャ層に対応したデータを中心にとらえたソリューション群であり、三菱電機の基礎技術、MDITのシステム構築力を基盤として提供する。また、データにフォーカスした各種応用ソリューションも提供している。